

令和 2 年第 4 回定例会

大野誠一郎による質疑応答全文（2020 年 12 月 11 日）

【注意事項】

ここに記載した龍ヶ崎市議会定例会における答弁内容は当ホームページ掲載に向けて一部体裁等を調整しておりますが、答弁内容については公式に発表された議事録と照合した上で、忠実に再現しております。

大野誠一郎

通告により一般質問を行います。

一つ、市長交際費について、二つ、牛久沼感幸地構想についてでございます。

まず、はじめに、交際費の支出についてでありますけれども、さきの決算委員会で書面質疑をしました。交際費の件数が 201 件ある中で、会費の支出は 180 件でございます。交際費の支出について大半が会費の支出となっておりますが、会費制の会合に招待された件数と、会費制ではない会合の件数は何件かをお尋ねいたします。

龍崎隆市長公室長

交際費の中で会費として支出したもの、これについてはご指摘のとおり 180 件でございます。このうち案内状等に会費などの金額が記載されていたものは 66 件、その他が 114 件ということで、この 114 件が会費の記載がないということでございます。なお、案内状等に会費などの記載がないものにつきましては、市職員が主催者に電話等で確認をした上で支出をしております。

大野誠一郎

また、会計決算委員会の中で、3 問目には、お見舞いあるいは寸志、そういったもの等に含まれるものがあるのではないかと、そういった会費の支出が適正かという質問の中で、会費の支出は適当であると、そういうお答えをいただきましたが、実際会費をお支払いしている中山市長にお尋ねいたします。

中山一生市長

決算委員会で答弁があったとおり、私は適正であるというふうに考えております。

大野誠一郎

それでは、個別にお伺いいたします。

稲敷地方広域市町村圏事務組合議会との懇談会、龍ヶ崎地方塵芥処理組合議会との懇談会、いわゆる議会後の懇談会でございます。それが 7,000 円、地方塵芥処理組合は 7,000 円、広域市町村圏事務組合議会には 8,000 円と、そういうことに支出しておりますが、間違いはございませんか。

龍崎隆市長公室長

議員のご指摘のとおりでございます。

大野誠一郎

市長から答弁をお願いしたいと思います。龍ヶ崎地方塵芥処理組合につきましては、案内状がありまして領収書はございません。稲敷地方広域市町村圏事務組合議会については、案内状がなく領収書もございません。かつ龍ヶ崎地方衛生組合は、案内状もなく領収書もないんですが、公的支出はしておりません。県南水道のやつは、私は分かりません。いずれにしても、恐らく衛生組合に関しては公的支出しておりませんので、自分で出しているのかと思うんです。そんなわけで、地方塵芥処理組合それから稲敷地方広域市町村圏はなぜ公費支出をしたのか、そして衛生組合は自分で出したものと思われるが、その辺の整合性の答弁をお願いしたいと思います。

中山一生市長

広域の一部事務組合の議会後の意見交換会のお話かと思います。大野議員とも同席をさせていただいたこともございましたけれども、一部事務組合に関しましては、龍ヶ崎市の一部事務を担っている地方公共団体でございます。私が市長である立場であるからこそ管理者として仕事をさせていただいているところでもございますので、そのような意味合いも含めて支出をさせていただいたところでございます。衛生組合に関しては、事務局のほうから答弁をさせていただきます。

龍崎隆市長公室長

龍ヶ崎地方衛生組合議会議員と市長との懇談会、これは令和元年11月6日に開催されております。こちらの会費につきましては、他の稲敷地方広域市町村圏事務組合や龍ヶ崎地方塵芥処理組合の議員との懇談会同様、本来であれば交際費から支出すべきところでございましたが、事務処理を誤り、会費相当額を市長が支出したということでございます。

大野誠一郎

稲敷地方市町村圏事務組合議会につきましては、鴻巣議長が議長になっているわけでございます。しかしながら、議会後の懇談会に議長交際費は出ておりません。そういうわけで、その整合性が取れないと。つまり管理者をやっている、いわゆる龍ヶ崎市長の管理者でやっているからこそ、龍ヶ崎市長としての交際費の支出をしているというのが、私はどうも納得いかないわけでございます。もう少し分かりやすい答弁をお願いしたいと思います。

中山一生市長

分かりやすくというご質問でございましたけれども、この一部事務組合の管理者の立場というのは、先ほど申し上げましたように、市長をやらせていただいているゆえに管理者として仕事をさせていただいている部分がございます。そして当然、管理者交際費というものもあるわけではございますけれども、管理者交際費においても、各市町村の分担金から出している部分でもありますので、非常にこのすみ分けが難しい、振り分けの難しい部分かとは思いますが、今後、法にも照らし合わせてどのような支出が適正かどうかは、しっかりと検証していかなければならないと思いますが、適法なものであるというふうに現在では考えているとこ

ろでございます。

大野誠一郎

鴻巣議長も稲敷広域地方市町村圏組合については議長である、いわゆる龍ヶ崎の議長であるから稲敷広域地方市町村圏組合の議長になっていると思います。ですから、その大本といいますか、それは同じだろうと思います。恐らく出たものにつきましては、適正であると判断して出したことは間違いはないと思います。ですが、今後、見直しを求めたいと思います。

それと、その市長が長をやっておりますものに関して、そういう懇談会の会費を市長交際費で出しているものもあります。いうなれば、ボーイスカウト、ボーイスカウトの育成会か私は知りませんが、数少ない領収書の中で、育成会、中山一生様と書いてあるわけです。だから、ボーイスカウトの育成会の会長をやっているんだろうかと、領収書が数少ない中でそういう領収書を発行しているんです。それから、社会福祉協議会の理事会との懇談会、つまり理事会をやった後に理事会の懇談会、それまたしか社協の会長を龍ヶ崎市長がやっているだろうと思います。そのことの公費での支出が適正であったのかもお尋ねしたいと思います。

菊地紀生総務部長

先ほど議員からお話がいったように、稲敷広域なり衛生組合とか、市長自らが代表者となっている団体への交際費の支出について適正かどうかというようなご質問かと思います。交際費の支出については、市政運営上直接かつ密接な関係ある関係機関、関係団体、市政協力者、行政委員会及び附属機関等の委員等を相手方といたしまして支出されているものというふうに認識をしております。仮に市長が当該団体の長であったといたしましても、市を代表して招待をされるような会合等であれば、会費や祝金の名目で交際費を支出しても許容されるものというふうに考えております。

大野誠一郎

その件については、当然、長年、中山市長がなる以前からそういうことになって、いわゆるお支払いしているものだと思っていますから、それは当然事務方としてはそういう理由が成り立つかと思います。ましてや一般通告の内容については、10日、2週間前にやるわけですから、幾らでも答弁はできるだろうと思います。

それと、懇談会の中ではB&G USC海洋クラブとの懇談会が支出がありますが、これについては市長はどういうお考えでしょうか。

中山一生市長

B&G USC海洋クラブというのは、お調べになればお分かりになると思いますけれども、青少年育成などのコミュニケーション能力の向上、自立心の確立を目的にということで2018年に設立をされたと同っております。現在の会員数は14名、事務所所在地は牛久市にある。これ、今、答弁書を少し読みましたが、このUSC海洋クラブと関係の深いNPO法人が牛久沼でウインドサーフィンやSUPなど水辺のアクティビティーに大変積極的に取り組んでいらっしゃるクラブがございます。そこと関係が深いのがこのB&G USC海洋クラブの団体であろうというふうに考えております。

そして、このB&G USC海洋クラブというクラブは全国的に様々な形で事業を展開しておりまして、地域

の青少年の健全育成などに取り組んでいらっしゃいます。私も視察などで全国各地に行きますが、この財団の施設を何回か見たことがありますし、茨城県でも石岡市にスポーツセンターのような形で施設があるというふうに、ちょっと正確には今、資料を持ち合わせておりませんが、そのようなお話を伺っているところでもございます。

ということで、我々も地域資源として牛久沼がございますので、牛久沼の水辺のアクティビティーでこのB&G USC海洋クラブの力をどのような形で反映させることができるか、そういう意味も含めて、今後の龍ヶ崎市の子どもたちを水辺を通した健全育成などにどのようにつなげていけるかを、大変市政運営上に有益な懇談会になると、そう考えまして、式典後の懇談会にも出席をさせていただいたところでございます。

大野誠一郎

USC海洋クラブ、青年の健全育成ということですが、住所は牛久市ということですが、龍ヶ崎市のメンバーは14人のうち何人入っているんですか。

龍崎隆市長公室長

申し訳ございません。ちょっと手元に詳しい資料がないものですから、答弁も正確性を欠いていた可能性もございます。

先ほど申し上げましたNPO法人で水辺のアクティビティーをしているクラブに関しましては、ちょっと正確な資料がございません。龍ヶ崎市の方もいらっしゃるかと私は認識しておりますが、何人かはちょっと申し上げることができないので、もし必要があれば後ほど照会させていただきたいと思います。調べられればですけども、今日には間に合わないかもしれませんが、お伝えはできると思います。

USC海洋クラブ、これはB&G財団、たしか財団がございまして、ちょっとこの正確な名前を申し上げられないのが大変申し訳ないんですけども、その財団が、先ほど申し上げたのは、全国各地で様々な事業を行われているということでございます。ですので、その財団の方がクラブの活動しているところに、何かの折、ちょっとそれが今思い出せないんですけども、関連の深い団体でもありますので、その際に一緒にその財団の方がいらっしゃるということで、ぜひお目にかからせてほしいということで、式典に参加後に、その懇親会でも限られた時間ではありましたがお話をさせていただいたという経緯がございますので、答弁になっておりませんが、先ほどの答弁の補足とさせていただきます。

大野誠一郎

市長の交際費の支出及び公開に関する基準というものが 있습니다。その中で、「交際費とは、市長が外部との交際等、市政運営における有益性を鑑み、支出を必要とする経費をいう」、先ほど市長が言ったとおりではございますが、また、支出できる相手方、それが第4条には、「龍ヶ崎市の教育、文化、体育、防災、防犯、住民自治等、市政発展に寄与しているもの及び団体とする」ということになっていますので、牛久市が事務所で一体何人の会員でそういうこととお認めになったのかをお尋ねしたかったんです。

政党あるいは政治家への支出もしたことがあるわけでしょう。本来、政党、政治家への支出は禁止されていると思いますが、いかがでしょう。

菊地紀生総務部長

交際費からの政党等への交際費の支出の問題についてだと思いますので、ご答弁をさせていただきます。

交際費の中から政党、主に想定されますのは国会議員等の国政報告会であるとか、大臣就任祝賀会であるとか、県議会議員、市議会議員、いろいろあるかと思いますが、そういう交際費の中から儀礼のための経費として支出をされる経費につきまして、これも、いずれも社会通念上相当の範囲における交際費の支払いとして許容をされるというふうに認識をされております。これは地方公共団体の執行機関とそれぞれの支出先の間で市政の円滑な運営のための意思疎通や意見交換を図る必要があることから認められるものでありまして、特定の議員、特定の会派というような偏っている事情、特殊事情がなければ違法ではないというふうにされております。

大野誠一郎

私の認識では、大阪の高等裁判所の判例で禁止をしていると。理由としては、公平性を保つためというようなふうに私は感じています。個人で支出するのはよろしいかと思うんです。ただ、公金の支出がどうかというようなお話でございます。それなりに調べていただきたいと思います。

そして、会費の支出が数ある中で、領収書を徴し難いためという理由で領収書を添付していないものがたくさんありますが、徴し難いためという理由は何か、それを市長にお尋ねしたいと思います。市長は直接お金を支出してもらわないでくるから、どうしてもらわないのかと、そういうことでお願いします。

中山一生市長

このようなご質問がありましたので、いろいろお調べさせていただきました。場合によると私が領収書をなくしてしまったり、もらい忘れたりということもあったかもしれませんが、よくよく調べてみますと、領収書を用意していなかったという会合が多数を占めていたと、その領収書を徴し難いため理由の中では大変多かったということが分かりました。

支払証明書の中で領収書を徴し難いためと記載しているものについては、具体的に申し上げますと、会費を支出した際などに領収書の有無を確認させていただいた中で、その用意がなかったものということになります。主催者側で領収書の用意がされていない場合がありますので、当然ながら、出席者全員が同じ状況だったと思われます。そのような場合には領収書を徴し難いと判断し、理由として記載をさせていただいているということで、答弁とさせていただきます。

大野誠一郎

領収書を用意していなかったということらしいんですが、私は、領収書をもらいたいと、頂きたいということであるならば、もらえるだろうと思っています。ちなみに、私の知っている範囲でのお話なんですが、領収書は頂けます。それを頂きたいという希望がないから頂けないということです。領収書の件数が180件ある中で、いわゆる会議費がある中で156件をもらっていない。そして、会費制を書いてあっても66件、会費制と書いていないものについて114件と。本来、領収書を徴し難いためという理由はごくまれであるわけです。我々が選挙をやっていく中でも、例えば電気とか電話代なんか後で請求する。したがって徴し難く、それをもらえないということで、徴し難い理由等があるわけです。原則、領収書をもらうわけですが、それでなぜもらえないのかと、そういうわけで聞いたわけです。ぜひともこれからは、もらえないのが少ないというふうになっていきたいと思います。

もらえないということも分からないこともないです。なぜかという、祭礼的徴し難いためというのは、祭礼的式典のために領収書を徴し難い、全て龍崎公室長の名前で出しています。しかしながら、もらおうと思えばもらえないことはない。だからこそ寸意や寸志等に思うような部類になってしまうだろうかと、そういうふうな話をしたわけでございます。ちゃんとした会であるならば、当然もらうべきだろうと思います。それについて市長はどうお考えになりますか。原則、領収書はもらってくるわけでしょう。だから、それがもらえないのが多いわけです。180 件のうち、70%、80%ぐらいがもらっていないわけです。いわゆる 156 件もらっていないわけですから、疑念を抱かざるを得ないと。そういうことで、市長から答弁をいただきます。

中山一生市長

領収書につきましては、領収書が用意されていない場合には、その場で領収書を頂くことができないこともあります。しかし、公費の支出ということでもございますので、今後は可能な限り領収書を頂けるように事務局とも調整をしながら、先方とも相談をさせていただくようにさせていただければと思います。

ただ、会合等についてはなかなか難しいものもあるのかなと。あとは、大野議員ご承知のとおり、自費で出す場合には領収書をもらっても使いようがないのはご承知のとおりでございますので、そういうときに私も領収書はいいですよと言っているところもございますので、その点は少し改めるところは改めていければいいのかなと思います。

大野誠一郎

これにつきましては、議長あるいは各議員、同じ問題だと思います。そういった意味で、やはり市長が率先垂範するような形で物事をやっていただきたいと思います。

次に、電報についてお尋ねいたします。

電報は、祝賀の電報あるいは弔意の電報があると思いますが、いかがでしょう。

龍崎隆市長公室長

電報についての交際費の取扱いということでよろしいでしょうか。

電報につきましては、主に各種団体が主催する大会や式典等への出席、またはお葬式への参列が難しいと思われる場合、また首長の就任などのお祝い、こういったときに祝電あるいは弔電という形で発送しております。

市長の交際費の支出及び公開に関する基準におきましては、電報についての定めはございませんが、市政に関わりのある個人の団体からご案内やお知らせを受けて、本来であれば出席または参列などをし祝意や弔意を表すところを、他の公務等でそれがかなわない可能性が高い場合には、市としての礼を失しないよう、出席や参列の代替という解釈の中で運用し、電報で対応しているところでございます。

大野誠一郎

龍ヶ崎市長の交際費の支出及び公開に関する基準には、電報についての記載はございません。そういったものをどういったところの根拠から電報を出しているかお尋ねいたします。

龍崎隆市長公室長

先ほどもお答えしたと思うんですけども、市長の交際費の支出及び公開に関する基準におきましては、電報についての定めはございませんが、市政に関わりのある個人や団体からご案内やお知らせを受けて、本来であれば出席または参列などをして祝意や弔意を表すところ、他の公務等でそれがかなわない可能性が高い場合には、市としての礼を失しないよう、出席や参列の代替という解釈の中で運用し、電報で対応しているところでございます。

大野誠一郎

大体、お葬式に出席するときには、私が出席するときには市長はほとんどいるかと思うんですが、この電報というのは市内に住んでいる人の電報ですか。ちょっとお尋ねいたします。

龍崎隆市長公室長

令和元年度、電報は全体で 26 件発送しております。このうち祝電が 24 件、弔電が 2 件となっております。

この祝電の内訳といたしまして、大会や記念式典等、これに 13 件、あと就任祝いに 10 件等ございまして、市外の方へも相当発送しているという状況、具体的な数については、今、ちょっと数字がございませんので、申し訳ございません。

大野誠一郎

いろいろ質問した中で、公金の支出の適正化というものを若干危惧されるかと思います。

市長交際費の基準で所沢市にしては、市長交際費に係る節減、各種団体の総会・懇親会においては、挨拶のみで退席する場合には、飲食物をご用意いただかないことで会費が生じないようにしました。また、飲食を伴う場合には市長が自費で負担し、市長交際費からは支出しないこととしました。これを平成 23 年から令和 2 年 11 月現在まで続いていることです。締めて 678 万 4,453 円の節減額ということで、その市長交際費の幾らというのを発表する前には、こういった文言を出しています。できれば、中山市長もそういった文言を参考にさせていただきたいと思います。

中山一生市長

先ほどB&G財団というお話をしましたが、公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団という財団がございまして、もともと競技を財源としている団体でありまして、先ほど施設を自治体などというお話をさせていただきましたが、ちょっと今、資料が手に入りましたので申し上げますと、全国に 480 か所にB&G海洋センターという名前でスポーツなどの施設を建設をされたそうでございます。建設総費用が 1,400 億円ということでございます。現在は自治体合併等により、470 か所、389 自治体になったということですが、このような形で全国に至ってこのB&G財団が様々な形で事業を展開している団体でございました。その団体の方がいらっしゃるということで、そのクラブの記念式典のときにご一緒させていただいたという経緯がございまして、補足させていただきました。

大野誠一郎

別に私は団体の有益性を拒否しているわけではございませんし、言うなれば、龍ヶ崎市長の交際費の

支出及び公開に関する基準のものに龍ヶ崎市の教育、文化、体育、防犯、防災、自治会等市政発展に寄与しているもの及び団体とするものに支出をするというものに合っているものかどうかということをお尋ねしたわけでございます。

さらに、牛久沼感幸構想について、泳げる牛久沼は実現できるのか、それをお尋ねしたいと思います。

龍崎隆市長公室長

牛久沼感幸地構想において、水質浄化に係る目標として、泳げる牛久沼を目指していくことを掲げているとおり、牛久沼の名所化に向けた自然環境の分野の中で、特に水質に関する取り組みは重要な課題であります。これまで牛久沼の環境保全、水質浄化につきましては、本市と河内町、牛久沼土地改良区で構成いたします牛久沼運営協議会や、本市を含む流域自治体及び関係する土地改良区、漁業協同組合で構成する牛久沼流域水質浄化対策協議会など、関係する機関等が連携し取り組んできているところであり、新たな取り組みとして、アカミミガメの捕獲による水質浄化に寄与する取り組みなども実践されてきているところであります。牛久沼で水上スポーツを楽しむ団体の皆さんをはじめ、NPO法人、漁協などによる牛久沼の清掃活動も自主的に実施されるなど、直接的な水質浄化の取り組みによる効果は無論のこと、こうした清掃活動なども、ひいては牛久沼の水質浄化や環境保全にもつながっていくものであり、清掃活動をはじめとした牛久沼の環境保全につながる多角的な取り組みを継続的に行っていくことが重要であります。

水質浄化の取り組みは長期的な取り組みでもあり、今回、清掃活動を実施された団体の皆さんをはじめ、多くの皆さんに牛久沼との関わりを持っていただく仕組みづくりや、取り組みを通じて関係人口を増やしていくことも感幸地構想を実現していく上で重要な要素の一つであると考えております。このことにより、牛久沼の注目度が高まり、多くの皆さんに牛久沼の水環境に対する意識高揚の機会にもなり、水質浄化に向けた取り組みにもつながっていくものと考えており、関係人口の創出に向けた取り組みなども推進してまいりたいと考えております。

大野誠一郎

感幸地構想の中で、ハクチョウについての構想はないんですが、牛久沼と言えばハクチョウを連想しますが、なぜ明記されていないのかをお尋ねいたします。

龍崎隆市長公室長

牛久沼感幸地構想では、牛久沼を名所化するための三つのサイクルとして、自然環境、道、広場、にぎわいを掲げておりますが、特に自然環境については普遍的資産と位置づけ、丁寧に時間をかけて改善し続けることで、資産としてさらに磨きを増すとしております。

本構想において、この普遍的資産の改善については、具体的には水質浄化や緑地化などを例示しておりますが、例えばハクチョウやウナギなどの観光資産、あえて資源ではなく資産と申しておりますが、広い意味ではこういった資産についても含まれているものと考えております。

本市としましては、観光地構想を進めていく上で、ハクチョウを含めた普遍的資産等なども、それぞれの特性なども考慮しながら資産として磨いていければと考えているところでございます。

大野誠一郎

牛久沼は、また、つりの名所、鰻丼の発祥地と言われるウナギ、コイ、フナ等の水産資源がありますが、水産資源の振興はいかがでしょうか。

龍崎隆市長公室長

本構想において、ウナギやフナなどの水産資源も重要な観光資産であると考えており、牛久沼の名所化に向けた重要な要素の一つと考えております。

水産資源に関しましては、稚魚の放流事業を実施している牛久沼漁業協同組合と、これまでも、例えば護岸工事の際には水産資源への影響が出ないよう沼への配慮など、十分な協議を行いながら進めてきたところであります。

水産資源を活用した牛久沼のにぎわいの創出に向けては、水産資源への影響なども十分考慮し取り組んでいくことが重要であります。その上でも、引き続き、漁協の皆さんとは沼に関連した情報の共有に努め、より信頼関係を構築していきながら、牛久沼の活用に向けた取り組みを進めていければと考えているところでございます。

大野誠一郎

時間もないようですので、これで終わりにしたいと思います。

また、後ほどそういった問題をチャレンジしたいと思います。ありがとうございました。